

私の愛する…

釣りの好きだった父は、家族の中で唯一船酔いしない僕を幼い頃から海に連れ出しました。いつの頃からか、休日には海にすることが当然となっていました。船舶免許を取得してからは自分が操縦しての船釣りを楽しみました。寄ってくる小魚や熱帯魚を眺めていると何とも言えず癒されました。

アジア諸国への親善大使をしていた関係で、年に1回程度各国を訪問する機会に恵まれ、自然豊かな美しい海を見ると、海中の世界を体験してみたい！ 潜ってみたい！ という衝動に駆られ、スキューバダイビングを始める事になりました。美しい熱帯魚、珊瑚礁や地形、etc. 今まで船の上から眺めていたのとは格段の違い、想像をはるかに超えた別世界です。海中にいと英語の“Sea”が女性名詞なのがよくわかります。海の中では赤ん坊が母親のお腹の中で聞く時のような、近い音がします。だから、安心感に包まれるのかもしれませんが。すべては海から始まり海に帰っていく、そんな言葉を実感できるような安らぎの時です。

素晴らしい海中の世界を、一人でも多くの人に楽しんでもらうことができればと、プロライセンスを取得し、ボランティアで一般の方々への指導や、手助けなどをするようになりました。ますます海が、大好きになっていきます。しかし、ダイビングには減圧のための調整時間が必要で、1日3回、多くても、夜間を含めて4回潜るのが通常です。ダイビングが可能な場所は自然保護のため釣りはできないし、大好きな海を目の前に、何か他にできることは？ この調整時間を有効に活用する方法はないだろうか…水中がダメなら水上では…？



ダイビング講習

そんな時知り合いに水上バイクの世界ランカーがいたこともあり、水上での遊びも幅が広がりました。結局、水中・水上を同時に楽しむことは不可能でしたが、休日には海をフルに楽しんでいます。海で楽しむ仲間が自然と集まり、おかげで多くの友人に恵まれました。海のスポーツは魅力が満杯ですが、コストが高くつくのが難点です。それなら資金を出し合って、みんなで気軽に安く楽しもうと、日本海に拠点を作り、水上バイクや、船、ウェイクボード、サンドバギー等を揃え皆で楽しむようになりました。その仲間たちが飛躍して、沖縄の宮古島に常駐スタッフのいる施設を整えるまでになりました。

海で楽しむ。と同時に、ダイビングの際には、海中に絡まっている釣り糸や空き缶を、時には回収したり、みんなで楽しんで浜は、ゴミを拾って、来た時よりもきれいに帰る、といったことを心掛けています。一見当り前のようですが、地球の空気の一部を担っている珊瑚の白化現象など話題になったこともあり、またディズニーのアニメ「ファインディングニモ」に出てくるような一部の不道徳なダイバーもいます。海で楽しむという事は、海と共存する事である、という意識を伝えたい、そして日本の周りは全て海、そんな海で大いに遊び、ふれあいを大切にしたいと考えています。一人でも少しでも多くの方が意識を変えてくれたらと、活動の参加や、お手伝いなども行うようになりました。そんな経緯もあり、とある、NPO法人である人権擁護の会の役員を引受け、先日は自然保護を願う人達と幼稚園にインドネシア産のアトラスオオカブトムシを寄贈するといった活動も行い、子供たちと共に命の大切さを学んで参りました。



贈呈風景

そしてまた休日には、大好きな海へ帰ります。老後はどこか南の島に移住して、一日中海と戯れて暮らしたい。そう考え始めた今日この頃です。

第一工芸(株) 綿谷 賢治

